

# コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年3月10日

Nature論説

ゼロコロナを目指していた国では、ワクチン接種を軽視

## 【松崎雑感】

非薬物的感染対策がある程度成功している国々や地域でも、やはり、ワクチン接種が重要だという論説です。

思えば、感染力の高い感染症パンデミックにあたり、感染そのものを防止する対策は、ワクチンと薬物治療がある程度可能となるための「時間稼ぎ対策」であると言えます。香港と本土中国が今後どうなるかが注目されます。

ゼロコロナを目指していた国では、ワクチン接種を軽視

Silver A. 'COVID zero' regions struggle with vaccine complacency.

Nature. 2022 Mar 4. doi: 10.1038/d41586-022-00554-0. Epub ahead of print. PMID: 35246644.

香港のようなゼロコロナ戦略がある程度成功してきた地域ではワクチン接種率が低いことが問題となっている

新型コロナ流入阻止に成功してきたいくつかの国や地域では、ワクチン接種率が低いままで満足しているという困った状況がある。

感染力の高いオミクロン株発生後、流入を防いでいる国もあれば、大きなアウトブレイクが起きた国も多い。

このことは香港に典型的にあらわれている。

香港の「ダイナミックゼロコロナ戦略」は、3月はじめの1週間で56000人の感染者と246名の死亡者を出すという厳しい状況に見舞われている。

「ワクチン接種率が低いことに大きな懸念を抱いている。オミクロン株はデルタ株よりも若干重症化リスクが低いようだが、ワクチンを受けていない人々では重症化リスクが高い。重症化した人々は数週間の入院治療が必要であり、ベッドの余裕がなくなっている」と香港大学疫学専門家ベンジャミン・カウリング氏は述べた。

1年前は、1日あたり平均17名、最大60名の感染者で済んでいた。2021年2月に香港は一般市民へのワクチン接種を開始した。今年1月1日の時点で、2回接種完了者は62%に留まり、2月7日の時点で80才以上の33%は1回接種にとどまっていた。

香港バプティスト大学が2021年6月に発表した調査によれば、ワクチン躊躇・拒否意向者は調査対象者2753名の過半数を占めていた。

「ワクチンを受けたくない最大の理由は、ほとんど市中流行していないから、ワクチンを受ける必要性を感じられないというものだ」とオレゴン州立大学グローバル保健センター長Chunhuei Chiは語った。

新型コロナ感染リスクが低いと思う人々はワクチンを受ける率が低いという調査結果もある。2009～10の新型インフルエンザの時も同じ傾向が見られている。台湾、マカオ、中国本土、トンガ、西オーストラリアなどのゼロコロナ戦略地域でも、ワクチン接種率は低いままである。

## 高齢者

年代別ワクチン接種率は、75才以上層で最低である。2月7日現在、この層の2回接種率は69%である。ちなみに18～29才層は88%である。

国立台湾大学が1月に行った調査では、**出歩いて若い人々と接触する機会がないからワクチンを受けなくともよい、先ず若者がワクチンを受けるべきだと考えている高齢者が多かった。**

Chi氏は「香港と台湾では、新型コロナに感染した場合のリスクをどのように理解してもらうかが、ワクチン接種を進めるカギになるだろう」と語った。

公衆衛生専門家は、台湾が香港ほどの大変な状況にはならないだろうと考えている。現在市中感染者が毎日2名程度発見されているが、海外からの入域制限が廃止されるため、この数字は増えるだろう。

台北の健康と持続可能な開発基金総裁で疫学者のChiou Shu-Ti氏は、当局と一般市民がオミクロン株のアウトブレイクを迅速適切に封じ込めることができるだろうと考えている。

しかし、カウリング氏は、一人のスーパースプレッダーがコントロールできないほどの感染源となることもあるため、それは難しいと考えている。

ワクチン躊躇を研究している西オーストラリア大学の社会学者Katie Attwell氏は、ワクチンを受けなくともよいと思っている人々が多いという事は、政府自身がそう思っているためだと指摘している。

### ワクチンの必要性についての意識を高めるには

感染者がほとんどいないからワクチンも不要と考える人々の多い地域で、アウトブレイクを防ぐことができた例がある。

ワクチン流入を防いでいるトンガでは、2021年4月にワクチン接種を始めた。しかし当時不要論が結構存在していたとWHO南太平洋事務所所長マーク・ジェイコブズ氏は語った。

トンガ保健省は、WHOとUNICEFの支援を受けて、離島も含むすべての集落を訪問して、ワクチン接種の説明会を行った。2021年10月に初めての感染者が発見されたこともあって、ワクチン接種希望が増え始めた。

Attwell氏は「市中感染の存在が、ワクチンのPRに貢献したことは明らかだ」と述べた。

2月19日までに12歳以上のトンガ国民の90%と、80才以上の100%がワクチン接種を完了した。

しかし、ワクチン接種率が高くなっても、1月3日以降700名以上が新型コロナウイルスに感染した。

トンガは、1月15日の火山大噴火の復旧作業にも追われている。大きな津波と大量の降灰だけでなくコロナアウトブレイク対策も行わなければならない。



